

平成28年度
公益財団法人山口市文化振興財団
事業計画

平成28年3月

I 基本目標

山口市から管理運営の指定を受ける山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて各施設の持つ特性を生かしながら、さまざまな文化に触れる機会、参加する機会などを提供する企画事業を実施し、山口市における文化振興の一翼として、文化を育むまちづくりに寄与するよう努める。

II 基本方針

市民自らが多様な文化活動へ参加し、芸術文化を享受できる文化環境づくりを目指し、鑑賞、参加型及び創造型の企画事業を展開するとともに、広く文化に関する情報を収集し提供する。また、市民の自主的かつ創造的な文化活動を促進、支援するための事業を行う。

なお、これらの事業を実施するにあたって、単年度計画に基づく事業計画の策定及び事業の実施という形態のみでなく、長期的視点からの事業計画や新たな発想による事業展開をめざすとともに、これに基づく具体事業の年次的実施による事業内容の充実に向けた取り組みを推進する。

III 個別事業計画

定款第4条に掲げる6事業のうち、企画事業、育成・支援事業、調査研究事業、情報収集・提供及び施設の管理運営受託事業については、以下のとおりとする。

1 企画事業

当財団が所管する山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて、各施設の持つ特性を生かしながら文化振興に関する各種企画事業を実施し、文化に触れる機会、参加する機会などの拡充を図るとともに、事務局においては、幅広い市民の皆様が楽しめる娯楽性の高い事業の企画展開を図る。

(1) 事務局

山口市市民会館、山口情報芸術センター等、市内の文化施設を活用し、広域的かつ幅広い年齢層を対象にしたポピュラー音楽などのコンサート、舞台芸術などの公演を実施する。

(2) 山口市市民会館

オーケストラや演劇公演など質の高い鑑賞機会の拡充、また伝統芸能の理解を深めていただく公演の開催を目指すとともに、市民参加型のコンサートの開催など市民に多様な芸術文化の鑑賞機会を提供する。

(3) 中原中也記念館

中原中也を軸として、その軌跡や親交のあった人物を紹介するテーマ展示や企画展、特別企画展を実施するとともに、中也の人と作品を分かりやすく解説し、理解を深める一助として、講演会や学芸担当職員による読書会を開催する。また、中也が好んだ〈朗読〉をテーマにした市民参加型イベント〈生誕祭〉を実施する。

(4) 山口情報芸術センター[YCAM]

YCAM は、メディアと芸術の融合をコンセプトに先端的な芸術表現に取り組むアートセンターとしての独自性を維持しつつ、文化施設の役割である「文化の振興」を担うべき市民との関わりを意識した事業展開を進める。

- 「YCAM でなければ生み出せないオリジナル作品の制作」
メディア・テクノロジーを応用したオリジナルの作品を制作・発表することを重視することで、これまでも国際的に高い評価を得てきた。“新しい価値の創造”が市民から関心と理解を得られるよう、分かりやすさの工夫と、身近で社会性のある題材をテーマに取り組む。
- 「メディア・テクノロジーと市民をつなぐ教育プログラムの提供」
芸術分野に留まらず、メディアを取り巻く様々な環境を包括した「学び」を広く提供するため、運営体制や人材育成を市民レベルに広げ、教育ワークショップを始めとする様々な事業を施設内外で展開していく。
- 「地域の課題や資源とメディア・テクノロジーの融合」
さまざまなかたちで蓄積したメディア・テクノロジーにまつわる知識や経験を、山口の地域課題や資源に結びつける取り組みを重視していくとともに、市民のものづくり活動を積極的に支援していく。

2 育成・支援事業

財団友の会会員へのサービス向上を図るとともに、組織の拡充に努める。

また、市民が日常的に文化に触れ、あるいは文化活動に取り組む機会の拡充を図るため、市民の自主的な文化活動に対し助成金を交付し、側面的に支援する事業を継続実施する。

(1) 友の会の拡充と運営

公益財団法人山口市文化振興財団友の会「Ars Nova Yamaguchi」(呼称:エニー)の会員について、既加入者の継続加入及び新規加入の促進を図る。

① 会員期間

入会日から翌年の入会月末まで

② 会員種別

種 別	対象者	入会金(更新時には不要)	年会費
個人会員	個人	500円	1,500円

③ 会員特典

- ・チケットの先行予約及び割引購入
- ・情報誌(4・7・10・1月発行)及び催物案内(毎月末)の定期送付
- ・入会時及び更新時に YCAM シネマ及び中原中也記念館の招待券進呈
- ・協賛店での優待あり

④ 会員数の推移(件数)

種 別	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
個人会員	845	938	973	965	856	944

(2) 市民文化活動支援事業助成金交付事業

営利を目的としない市内の個人及び団体等が行う文化事業に助成支援するため、平成9年度に創設した「公益財団法人山口市文化振興財団市民文化活動支援事業」を継続実施する。

また、市報への掲載等による広報を行い、より多くの市民の自主的かつ創造的な芸術文化活動を支援する。

① 募集期間

平成28年3月1日～3月31日

② 助成金額

一事業につき50万円を上限

③ 審査方法

審査委員会の設置、開催

④ 申請及び採択件数の推移 ()内は中也における文化振興事業数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
申請件数	18	13	27	16	26(3)	18
採択件数	17	13	25	16	21(3)	17

3 調査研究事業

(1) 中原中也研究

関係資料の調査、収集、複製の製作等により、中原中也研究を推進する。

(2) 自主企画事業に関する調査及び研究

公演ごとのアンケート調査を随時行い、事業企画に対する市民ニーズ等の調査研究を進める。事業成果のまとめとしてドキュメント制作、展示・公演記録や、ワークショップパッケージ等のパブリシティに関わる作業を行う。

4 情報収集・提供事業

(1) 情報誌「any」の刊行

平成9年1月から刊行している情報誌を年4回(季刊)、継続刊行する。

(2) 山口市民会館催し物案内の発行

市民会館における催し物を紹介案内する広報紙を月1回、継続発行する。

(3) 中原中也記念館館報第21号の発行

活動記録、寄稿文等を掲載する館報を年1回、継続発行する。

(4) 機関紙「中原中也研究」第20号の刊行

研究論文、エッセイ、シンポジウム記録等を掲載する機関誌を年1回、継続刊行する。

(5) 山口情報芸術センター催し物案内の発行

山口情報芸術センターにおける催し物を紹介案内する広報物を継続的に発行する。

(6) ホームページの充実

財団及び山口情報芸術センター、中原中也記念館、山口市民会館のホームページにより、イベント情報を随時発信する。また、平成19年4月からは財団の主催・共催公演に関して、財団及び山口情報芸術センターのホームページからもチケット予約ができるシステムを整備、友の会への入会・更新もホームページ上から手続き可能となっている。

5 施設の管理運営受託事業

当財団が所管する山口市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターの管理運営において、「安全、安心、快適」に利用していただけるよう適切な業務を行う。

また、山口市民会館、山口情報芸術センターにおいては、市条例に基づいた施設の貸与事業を行い、利用者のニーズを踏まえた施設運営に努める。

6 企画事業一覧

事業企画	わかったさんのクッキー	9月10日(土)、11日(日) 山口情報芸術センター	現代日本の若者の姿を先鋭的に表現し、海外でも高く評価される演劇カンパニー「チェルフィッチュ」。その代表であり劇作家・演出家の岡田利規が初めて挑んだ「こどものためのお芝居」。個性的なキャラクターたちやおいしそうなお菓子が登場する人気の児童書「わかったさん」シリーズの代表作「わかったさんのクッキー」を舞台化しました。昨年(2015年)夏に、神奈川芸術劇場(KAAT)で初演され好評を博した本作が、今年は全国をめぐるなか、山口での上演が決定しました。関連企画として山口オリジナルのワークショップも開催予定です。
	MAHANYAWA(マハンニャワ) Live	8月中旬 もしくは9月初旬 山口情報芸術センター	インドネシア出身のルリー・シャバラとヴキール・スヤディーによるデュオ「SENYAWA(センヤワ)」が、2014年の初来日に際し、即興音楽家であり、ギタリストとして世界をまたにかけて活躍する内橋和久とともに、山口でもその独特の音楽を披露しました。ルリーの吠えるような叙情豊かなパワフルな歌声と、ヴキールの長い竹に弦を張った自作楽器は自由自在な音楽的表現を可能に。そこに内橋の音楽が加わることでさらに独自性を高め、ここでしか聞くことのできない表現へと昇華しています。この度、3人による新たなユニット「MAHANYAWA(マハンニャワ)」として、再び山口で熱いライブを行います。
	共催事業 人形劇団クラルテ「火の鳥」	12月18日(日) 山口市民会館	認定NPO法人こどもステーション山口と共同で開催する舞台事業。人形劇団クラルテが手塚治虫の漫画「火の鳥」を人形劇として舞台化した本作を、上演します。質の高い舞台公演を親子で鑑賞する機会を提供します。また、市内から参加者を募って半年かけてワークショップをおこない合唱団を結成。本番は人形の動きにあわせた合唱団による歌のシーンも予定しています。

区分	事業名	開催時期	内容
山 口 市 民 会 館	豪華競演！特撰落語会 林家木久扇・三遊亭好楽・林家たい平 三人会	4月16日(土) 14:00 開演	人気テレビ番組「笑点」でおなじみの林家木久扇、三遊亭好楽、林家たい平の落語会です。
	スペイン国立管弦楽団 山口公演	7月31日(日) 17:00 開演	26年ぶりの来日となるスペイン国立管弦楽団による演奏会です。
	松田華音 ピアノ・リサイタル	11月26日(土) 18:30 開演	非凡な才能を見いだされ、6歳でロシアに留学した天才少女、松田華音によるピアノ・コンサートです。 ※チケットは、12月の牛田智大ピアノ・リサイタルとセット
	牛田智大 ピアノ・リサイタル	12月23日(金・祝) 14:00 開演	クラシック日本人ピアニストとして最年少 CD デビューを果たしたフレッシュアーティスト、牛田智大によるピアノ・コンサートです。 ※チケットは、11月の松田華音ピアノ・リサイタルとセット
	山口きずな音楽祭 Vol.8	12月25日(日) 開演時間未定	山口のクリスマスの歴史を音楽を通じて次世代に伝えることを目的とした市民参加型の音楽イベントを開催します。
	第21回ニューイヤー バンドフェスティバル 2017	1月14日(土) 10:00 開演予定	山口県吹奏楽連盟加盟団体が、平素の練習成果を発表するとともに、他団体の演奏を聴くことによって演奏技術及び音楽表現力の向上めざし、さらには、各団体の親睦を図るためのコンサートです。
	「文楽への扉」in 山口 ～人形浄瑠璃文楽講座～	1月29日(日) 開演時間未定	ユネスコ無形文化遺産である人形浄瑠璃文楽の体験講座を本市で開催することで、文楽の歴史、人形の解説、作品の楽しみ方等を教わり、多くの市民を日ごろ目にする事のない日本古来の伝統芸能の世界へいざないます。
	第44回市民コンサート	3月20日(月・祝) 13:00 開演予定	各年度内に開催された各種コンサートにおいて優れた成績を収めた方々や平素から熱心に音楽活動が続けている方々を招いての「アンコールコンサート」を実施します。

<p>中原中也記念館</p>	<p>第13回テーマ展示 「中也の本棚—外国文学篇」</p>	<p>2月24日(水)～平成29年2月12日(日) ※特別企画展会期中を除く</p>	<p>中原中也も中学時代、友人の詩人・富永太郎からフランス象徴詩を学びます。その世界に強い影響を受けた中也は、東京外国語学校などでフランス語を習得し、3冊のランボー翻訳詩集を刊行するなど、終生、フランス文学に強い関心を持ち続けました。</p> <p>また、中也はそのほかにも、ロシア、ドイツ、イギリス文学などの多様な外国文学を読み、詩人としての文学的素養を育んでいきました。読書家の中也が残した日記や手紙には、読んだ本のタイトルや感想が数多く記されています。</p> <p>本展では、中也が読んだ本を通じて、中也と外国文学の関わりについて紹介します。</p> <p>※第14回テーマ展示「私が選ぶ中也の詩」(仮) 平成29年2月15日(水)～平成30年2月下旬</p>
	<p>特別企画展 「太宰治と中原中也」</p>	<p>7月28日(木)～9月25日(日)</p>	<p>作家・太宰治と詩人・中原中也。小説と詩というジャンルの違いはあるものの、二人の作品には、あたかも作者と自分が大事な秘密を共有しているように感じさせる、不思議な魅力があります。</p> <p>実際に2歳しか年の離れていない二人は、同時代の文学者として「青い花」、「鶴<small>ぼん</small>」、「文学界」といった同じ文芸雑誌に作品を寄せています。お互いを評した文章はほとんど残されていませんが、周囲の人々の証言からは互いを強く意識していた様子がうかがわれます。</p> <p>本展では、二人の文学における接点を探るとともに、太宰の多彩な小説世界を紹介します。</p>
	<p>企画展Ⅰ「DADA 1916→1923 ツアラそして中也」</p>	<p>4月20日(水)～7月24日(日)</p>	<p>第一次世界大戦のさなかにスイスで誕生したダダイズム。「無意味」を旗印に世界中へ波及したこの芸術思潮は、中原中也にも多大な影響を与えました。2016年はダダイズムが始まってからちょうど100年にあたります。本展では、その発生から、芸術・社会に与えた影響などについて、立役者である詩人トリストラン・ツアラの活動を中心に紹介します。さらに、ダダイズムが中也にどのような影響を与えたのか、詩の鑑賞などを通じて探ります。</p>

中原中也記念館	企画展Ⅱ「中也、この一篇―「サーカス」」	9月28日(水)～平成29年4月16日(日)	<p>中也の代表作をじっくりと味わう企画展シリーズがスタート。第1回目は〈ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん〉のフレーズが印象に残る「サーカス」です。</p> <p>昭和4年に無題の詩として発表されたこの作品は、のちに昭和9年刊行の第一詩集『山羊の歌』に「サーカス」のタイトルで収録されます。</p> <p>本展では作品の成立過程や、中也が生きた明治末期から昭和初期にかけての日本のサーカスの歴史など、様々な角度から作品を読み解きます。</p>
	屋外展示	前期 5～10月 後期 11～4月	中也ゆかりの山口線をイメージした枕木を敷きつめている中庭では、テーマ「酒」にちなんだ中也の詩を紹介します。
	公開講演	第1回 9月17日(土) 第2回 未定	9月は「中原中也の会」との共催により講演会を行います。(講師等は未定)
	中原中也を読む会	毎月第4金曜日	教育普及事業として実施。テーマに沿った中也の詩を読み込んだり、記念館の展示を学芸員の解説とともに見学するなど、気軽におしゃべりしながら、詩の世界を楽しく味わうことができます(無料)。
	中原中也生誕祭「空の下朗読会」	4月29日(金・祝)	中也の生誕日に前庭で開催。詩の朗読を好んだ中也にならない、自作や愛読の詩を朗読する一般参加の朗読会と、大宮エリーのコンサートを行います(無料)。
	中也忌～墓前祭と中也に捧げる夕べ	10月下旬	中也の命日10月22日前後にあたる週末に、中也が眠る「中原家累代之墓」にお参りし、夕方からは朗読やミニコンサートなどを行い、中也を追悼します(無料)。

山口情報芸術センター	Vanishing Mesh(ヴァニシング・メッシュ)～ コミュニケーションエクセス(仮題)	展示期間:平成 29 年 1 月～3 月	<p>YCAM でなければ生みだせないオリジナル作品の制作を通じて、国内のみならず世界を魅了することのできる独自性、創造性を発信します。この度タイアップするアーティストは、菅野創+やんツー、石毛健太、SINE WAVE ORCHESTRA。「目に見えないが、確実に私たちに影響を及ぼすもの」をテーマに、三組のアーティストが新作を制作・発表するグループ展です。</p> <p>過去の作品 菅野創+やんツーは札幌国際芸術祭で、地下街で感知される wifi や携帯の電波など、人間の目には見えないが、人々を取り巻いている人為的な波形／電波を可視化させる作品を制作しました。一方、サインウェーブ・オーケストラが使用するサインウェーブ(正弦波)も、目に見えないがその配置や構成によって、聴く体験が変化するもので、これまでの作品では鑑賞者が音源の位置を自由に変更できる参加型の作品を制作しています。</p>
	インターラボ滞在研究事業「地域課題解決プロジェクト」	展示期間:平成 28 年 6 月～7 月、平成 29 年 2 月～3 月 フィールドワーク:年 4 回	<p>デザインやアートの力で地域課題を解決する「ソーシャルデザイン」の視点を加え、地域の課題に焦点を当てたプロジェクトを実施します。ロンドン出身のプロダクトデザイナーで、現在香港をベースに「HK Honey」(ホンコン・ハニー)という養蜂プロジェクトを手がけるクリエイティブディレクターの Michael Leung(マイケル・ラウ)氏を招聘します。年 4 回山口のフィールドワークのため YCAM に滞在してもらい、最終的に、そのリサーチ結果のショーケース展示と、山口という地域特性を活かした新規プロジェクトの立案をおこないます。</p>

山口情報芸術センター	地域独自の創造性を発信する、地域開発ラボ事業	通年	<p>YCAM が開館以来培ってきたメディアテクノロジーに関する技術やデザイン力を地域社会へ還元することで、文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に活用し、地域課題の解決に取り組めます。</p> <p>事業内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [YAMA KITCHEN] 周辺の大学を含めた教育機関や企業、市民主体の団体等と連携をとりながら、「食」をテーマにしたコミュニケーションの場づくりを行います。YCAM の強みであるコミュニティ・デザインや情報発信面などで連携を図ります。 ・ [RADLOCAL] 文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に活用するためには、地域プロデュースの視点を持った人材が必要であるため、地域／メディア／人にフォーカスを当てた、新しいタイプの地域プランナーを育成する 4 日間の集中ワークショップを開催します。 ・ [バンブーバイク開発プロジェクト] 過疎地域において、地域の素材である竹を加工し、地域住民とプロダクトデザイン企業を巻き込んだ、文化芸術の視点による産業振興を図ります。 ・ [ツアーコンテンツアプリ] YCAM の様々なプロジェクトを通じて発見/蓄積してきた山口市内の貴重な地域資源のデータ(歴史や文化の遺産も含む)を、ツアー形式の体験的なコンテンツ=ツアーアプリとして開発/リリースし、教材や、観光材として展開していきます。 ・ [ソーシャル・デザイン関連イベント誘致] 地域が抱える複雑な課題と向き合い、解決に向けて創造的に取り組むために全国各地で開催されているソーシャルデザイン関連のイベントを招聘します。外部機関と連携しながら、デザインを基軸に、地域社会を議論していく場の創出をおこなうことで人材育成もおこないます。
------------	------------------------	----	---

山口情報芸術センター	子どもたちが創造する メディア公園 「コロガルガーデン」	平成 28 年 6 月 18 日 (土)～9 月 4 日(日)	<p>メディア時代の新しい学びの場の提案「コロガル公園」シリーズは、メディアアートセンターならではの発想で、子ども自身が遊びを通じて考え、創造するための環境としてデザインされた公園です。会場内には、複数の異なるアクティビティを生み出すブロック型の遊具を設置し、身体的な装置と埋め込まれたスピーカー、マイク、LED 照明などのメディア的な装置で、全感覚を呼び覚まし遊びを創造することができます。</p> <p>また、利用者の声を実際に反映する仕組みとして会期中に「子どもあそびばミーティング」を実施します。採用されたアイデアは公園の新しい機能として追加されます。</p> <p>このように、人々が集い、創造的な遊びを発明したり試したりする中で、メディアリテラシーや創作センスの向上を通じて、創造的なコミュニティの創出を目指します。</p> <p>H28 年度展示の特徴</p> <p>今回の展示を構成する主な構造物は、複数の巨大なブロック体です。それぞれのブロックは、階段の形状をしているものや、ジャンプ台の形状をしているもの、トンネルの形状をしているものなど、それぞれが異なる機能を持っています。複数のアクティビティを誘発するブロック群のなかで、鑑賞者は自身の身体機能を発見しながら新しい動きを獲得していきます。</p>
------------	------------------------------------	------------------------------------	--

山口情報芸術センター	マシュマロ・レーザー・フィースト「イン・ジ・アイズ・オブ・アニマルズ」	平成 28 年 10 月 7 日 (金)、8 日 (土)、9 日 (日)、10 日 (月祝)	“In the Eyes of Animals” は、イギリスのアーティスト、マシュマロ・レーザー・フィースト(MLF)による、没入型ヴァーチャルリアリティ技術を通して、観客が自分の身体を通して体験する作品です。ユスリカ、トンボ、カエル、フクロウといった様々な動物(昆虫)の視覚を通して、世界を見ることを疑似体験します。体験者はこの作品用に開発・デザインされたヘッドセットを装着し、360° の映像を見て、さらに立体的に録音された音を聞きながら、従来の人間の視覚とは全く異なる方法で、屋内、そして森の中で、観客が自分の周りの世界を再発見していきます。例えば、トンボの目を通じた世界は人間よりも 10 倍の速度で感知され、人間のもつ 4 倍もの色波長を持っているようにデザインされているように、観客は普段何気なく見ている景色や、自分の身体の感覚を新鮮に感じる事が意図されている作品です。
	研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion (RAM)」	年 2 回の成果発表 (時期未定)	RAM とは、2010 年から発展させてきたダンスとテクノロジーのプロジェクトですが、その応用範囲を拡げ、特にスポーツと障がいをキーワードにして、さらなる展開を模索していきます。2020 年の東京オリンピック、パラリンピックを見据え、すでに国際交流基金、ブリティッシュ・カウンシル東京等から、RAM システムを使った、障がいを持つアーティストとのコラボレーションについて強い関心が向けられています。RAM はすでにハードウェア、ソフトウェアともにオープンソース化をおこない、成果の応用を模索する段階となっています。本年度は、障がいをもったクリエイターやアーティスト、研究者と共にトライアルやディスカッションを重ねつつ、並行して、ユニークな取り組みをおこなう研究者、ダンサーやプログラマー、エンジニアやアーティストと研究成果の応用について意見交換や試行を進めていきます。

山口情報芸術センター	sound tectonics#18 sound tectonics#19 sound tectonics#20	平成 28 年 9 月 25 日 (日)、12 月 3 日(土)、 平成 29 年 2 月	<p>開館時より、芸術表現の可能性としての空間意識や表現レベルの高い作品を、設備の整った環境で聴取する機会を提供している音楽イベントシリーズです。今年度は3本のライブイベントを開催します。</p> <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/25 日:タイ音楽を主軸に世界各国の音楽を発掘・収集するユニット、Soi48 (ソイよんじゅうはち:宇都木景一 & 高木紳介)のライブを開催します。 ・12/3:『ポスト YouTube 時代のポップ・マエストロ』と称される相対性理論のライブを開催します。ファン層の広がりに対しては地方公演の数が極端に少ないため大変貴重な機会となります。 ・2 月:一定のリズムやフレーズを反復するようなアレンジを特徴とするロックバンド「空間現代」のライブを開催します。
	YCAM 滞在研究事業	通年	<p>国内外の研究者を YCAM に招聘し、現在までの YCAM における数々の実践を基盤とした共同研究をおこないます。具体的な研究の例としては、地域に潜るアジア、千年村プロジェクトなどの地域連携事業に関する実地調査、コロガルパビリオンなどの実践を踏まえ、次世代の人材育成に向けたワークショップの実施とその分析、YCAM のプロジェクトアーカイブサイトである Re-Marks を活用した作家研究、インターラボにおけるモーションキャプチャシステム Motioner の改良版の開発、事業としての映画上映での上映・制作作品を対象とした比較調査などをおこないます。</p>

山口情報芸術センター	YCAM InterLab バイオリサーチプロジェクト	通年	<p>バイオテクノロジーは、医療や食料品など、多くの側面で一般の人々の生活に関与してきています。特に近年は、DNA の読み取りにかかるコストが 10 年間で数千分の 1 にまで低下したことに代表される、急激なコストの低下や、欧米を中心に世界中で一般の人々がバイオテクノロジーに触れることのできる、ファブラボのような施設が立ち上がってきていることなど、これまで大学や企業の研究機関のみの物だった技術が一般の人々にも手の届く物になりつつあります。この流れを受け、YCAM としても大きく変わりつつある、人々に必要とされるこれからのリテラシーについての考察をし、エデュケーションプログラム、芸術作品への応用を研究するため、バイオラボ設備を導入し、これまでに培ってきている他の技術との融合も積極的に視野に入れながら、これに取り組みます。</p> <p>事業内容 毎月一度 YCAM バイオラボのオープンデーを実施し、小規模のレクチャーやワークショップを開催します。</p>
	学校連携事業「YCAM 大運動会」およびオリジナルワークショップの実施	通年	<p>YCAM はこれまでに、日常無意識になりがちな身体メカニズムや、メディア・テクノロジーの発展が生んだ社会的テーマ、技術そのものなど、主体的に関わることで理解を深められる参加型のワークショップを開発してきました。これらのワークショップを、平成 28 年度より 3 年計画で学校教育と連携を図りながらワークショップの開発や試行をしていきます。初年度はまず、市教育委員会が市内の小中学校に向けて活用を推進している「子ども芸術体感事業」の枠組みの中で、子どもたちがメディアとふれあえる事業を展開していきます。</p>

山口情報芸術センター	教育普及スペース運営事業	通年	<p>地域のクリエイティビティをリードするには、暮らしの中で起こる自分のアイデアを形にできる環境を整える必要があります。まず、暮らしや自分自身を豊かにするアイデアを持つ人材を増やすこと、そしてそのアイデアを形に創造するノウハウを身につけてもらうことです。YCAM では過去 10 年間、アーティストとともにアイデアを作品として創造してきました。その発想力や技術、ノウハウを地域に還元するため、教育普及スペースを設置・運営し、クリエイティブな人材を育成する環境を整えます。</p> <p>このスペースに設置される機能は、YCAM オリジナルワークショップをはじめとする「あそぶ」「考える」機能の他、メディアツールを使った創作工房による「作る」機能があります。遊びや生活の中で生まれたアイデアを思いきり実験し、試行錯誤する環境を整えることで、アートの視点からアプローチする次世代育成と地域活性化のプラットフォームづくりに取り組みます。また、このスペースを運営するスタッフの一部にインターンを導入することで、YCAM で得た知識や技術をさらに地域や社会に還元する仕組みを図ります。</p> <p>事業内容: ギャラリーツアー、YCAM オリジナルワークショップや展覧会に関連した簡単なワークショップ、メディアツールを使った創作工房、インターボスタッフや外部講師によるレクチャー等。</p>
------------	--------------	----	---

山口情報芸術センター	<p>YCAM Film Factory vol.2</p> <p>映像制作集団 空族</p> <p>【『バンコクナイツ』を読み解く(仮)】企画展示</p>	<p>平成 28 年 8 月 6 日 (土)～10 月 2 日(日)</p>	<p>平成 27 年度に実施した YCAM Film Factory vol.2 では、空族が制作中の映画『バンコクナイツ』のメイキング映像の制作に取り組みました。『バンコクナイツ』は、これから日本にとって重要度の増すアジアを舞台にした国際共同制作映画です。</p> <p>YCAM では、映画の完成公開に合わせて、【『バンコクナイツ』を読み解く】企画展示を実施し、広く開かれた成果発表の場を設ける、映画をコアにした初の企画展示を実施します。</p> <p>空族の現地でのネットワークは、映画制作をコアにして草の根的に発生しているものであり、一朝一夕では成り立たないものです。企画展示では彼らのネットワークを十分に生かし、現地目線であると同時に歴史を俯瞰したアジアへの独自の視点を打ち出す企画展とします。こうしたボトムアップ型の企画は、アジアのアーティストに対して、YCAM の独自性のアピールにつながるものとなります。</p>
	<p>「YCAM 爆音映画祭 2016」「真夏の夜の星空上映会」</p>	<p>平成 28 年 8 月</p>	<p>監修に樋口泰人(boid 主宰/映画批評)をむかえ、音楽ライブ用の音響セッティングを使い、大音響の中で映画を視聴する「爆音映画祭」を開催します。音と映像の関係について、メディア史の視点から映画を捉える YCAM ならではの映画上映イベントです。</p> <p>また、YCAM の夏の恒例行事「真夏の夜の星空上映会」は、すっかり涼しくなった夕暮れ時にお友達、ご家族と共に芝生でゆったりと映画を楽しむことができるイベントです。いつもとは異なる環境で映画を上映することで、日ごろ YCAM に来られない家族層への PR や新しい鑑賞方法の提案の場にもします。</p>

山口情報芸術センター	YCAM Film Factory vol.3 染谷将太監督映画 『(題名未定)』制作	平成 28 年 4 月～7月	YCAMでは、平成27年度よりYCAM Film Factoryとして「自由な映画制作を模索する」プロジェクトを進めています。プロフェッショナルな観点と経験をもちつつ、既存の映画制作のみに捕われない自由な発想を持った映画監督と協同し、YCAMに蓄えられた他ジャンルに横断する知見を総合することで、コンパクトで、より自由な映画のありかたを模索しています。今回は、人気俳優であると同時にキャリア初期の映画監督である染谷将太を招聘し、メディアアートセンターである YCAM が染谷の新作をプロデュースすることにより、染谷の作家性を映画だけではなく、より広いアートの分野でもアピールする機会になると考えます。また、地元山口で撮影制作する映画を通じて、新たな映画層の発掘と地域資源の開発・発信を行います。
	YCAM シネマ	通年 毎週金、土、日曜日	映画を映像表現、映像芸術の視点から、巨匠から新人作家、アニメーションからドキュメンタリーまで幅広いジャンルの新旧の優れた作品を上映し紹介します。新たな観客の発掘を兼ねた市民サービスの意味合いも含んだ集客の見込める作品も年に数本上映し、映画愛好家だけでなく、様々な年齢層やニーズにむけた作品を上映することで新たな観客の発掘につなげていきます。

山口情報芸術センター	プロモーション事業	通年	<p>YCAM の事業は、年々、多層化と多極化が進んでおり、多様な領域での成果が見込める反面、事業に対して理解を得るためのハードルが上がってきています。そのため情報発信には、そうしたリスクを回避しながら、事業のミッション達成を後押しするための工夫が求められています。</p> <p>具体的な取り組みとしては、事業のプロセスを一定のペースで可視化することや、主にマスメディアなど既存の外部メディアを活用した発信、ガイドブックの制作やポータルサイトを通じた発信など、多様なアプローチによる情報発信を積極的に進めることでYCAMに対する理解度を高めていきます。</p> <p>また、海外に対する情報発信については、英語にとどまらず、東アジアの文化圏もみすえた多国語対応や、サイトとSNSなどの連携性を高める仕組みづくり等、積極的なプロモーションを進めることで、さらに発信力を強めていきます。</p>
	今までの作品紹介サイトの充実事業	通年	<p>山口市関連サイトの中で、突出して外国人アクセス数が高いのが YCAM の今までのオリジナル作品をアーカイブした動画サイト「Re-Maks」(http://re-marks.ycam.jp)です(日本国外からの再生回数7万8000回)。作品の魅力をPRしていくこのサイトを日本語・英語ともに充実させていくことで、国内外を問わず、来館のきっかけをつくり、実際の鑑賞・体験につなげていきます。また、この「Re-Maks」は、巡回展示の広告塔の役割も担っているため、このサイトの充実は巡回展示の可能性を高めることに繋がります。</p>